

宮城県支部

新春賀詞交換会俳句会成績

日時 令和八年一月二十四日(土)

場所 東京エレクトロンホール宮城

藤田直子選 (本部派遣選者)

○特選

朱の橋の戻りは雪の橋となる

小野寺みち子

あかつきへ翔つ幾万の冬の雁

及川ななを

春待つやパティシエ服を試着の子

熊谷 正子

○秀逸

閑上の海鳴り遠く寒北斗

高村 龍彦

神楽果つ神の気配の闇残し

渡辺 柁子

龍の玉他郷に歳を重ねつつ

小林 里子

吊し柿蔵王山の風も加はりぬ

鈴木 恵子

団子屋も出て二の丸の菊花展

柏原 眠雨

○佳作

モーニングセットに列の師走かな

明石 峰雄

背伸びして高きに結ぶ初みくじ

佐藤 拓郎

仙台麩ひとつ買い足す歳の市

松村 正

古書店の静かに込めり文化の日

佐藤 啓子

傾きし山神の碑や雪女郎

高木 秀子

伊豆沼へ空の轍を冬の雁

鈴木 勝也

初刷に彼の大手門復元図

岡本 幸治

好きでした名無き寄せ書別れ霜

諸岡 孝子

番傘の骨の太きや雪の宿

富田 洋子

お移りの蠟梅一枝ありにけり

小林 里子

○互選高得点句

雪折れの真竹の匂ふ学問所

坂内 佳禰

朱の橋の戻りは雪の橋となる

小野寺みち子

神楽果つ神の気配の闇残し

渡辺 柁子

十二月八日回覧板届く

渡辺 柊子

空真青一羽の鷹の大舞台

江戸 裕子

仙台麴ひとつ買ひ足す歳の市

松村 正

風見鶏の向きたる空を恵方とす

宮野かほる

裸木を籠とし鳥の自在なり

佐野 享保

伊豆沼へ空の轍を冬の雁

鈴木 勝也

雪吊の幾何学模様夕日染む

及川 わか

あかつきへ翔つ幾万の冬の雁

及川ななを

渡船より犬も降りたりお元日

渡辺 柊子